

SC JAPAN TODAY

[ショッピングセンター・ジャパン・トゥデイ]



特集 自然災害に SCはどう向き合うか

[日][英][中][韓]の4言語アナウンスが使い放題!

iPadアプリで、 地震や火災の外国語の非常放送ができます



[地震]

「この建物は安全です。」



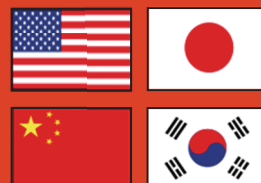
[火災]

「係員の指示に従い避難してください」



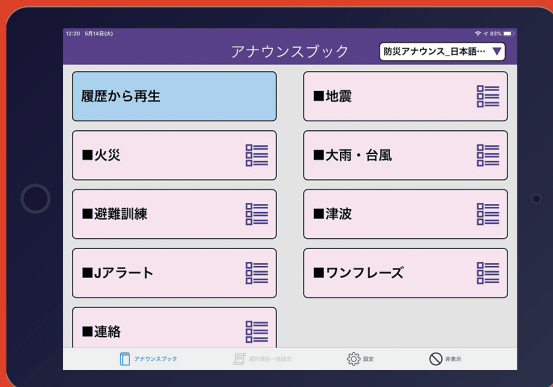
[大雨]

「大雨洪水警報が発令されました」



使わないアナウンスは、非表示設定が可能 (いつでも戻せます)

落ち着いてください・避難してください等、よく使われるワンフレーズ集も標準搭載



日本人1人でも4ヶ国語のマイク放送可能

避難訓練に活用
(本日) (9時) (30分より) (避難訓練を行います。) 非常放送が流れますが、これは訓練放送です。(避難訓練を) 終了します。ご協力ありがとうございました。

よく使うアナウンスは、履歴からすぐに再生可能

収録されている主なアナウンス内容

地震

Ⓜ(震度6弱の)地震が発生しました。今後も余震が予想されます。係員の指示に従って落ち着いて行動してください。

火災

Ⓜ(5階にて)火災が発生しました。係員の指示に従って避難してください。落ち着いて行動してください。ハンカチで口を押えてください。

台風・大雨

Ⓜ(大雨特別警報が)発令されました。次の放送に注意ください。

その他

Ⓜけがをした人は申し出てください。
Ⓜ逃げてください。
Ⓜ次の放送にご注意ください。
Ⓜ窓のそばに近づかないでください。



流したいアナウンスを選んで再生、非常放送マイクに聞かせるだけ

体験版をご用意 まずは使いやすさを体験ください。iPad/iPad miniをお持ちの場合、無料でインストール可能です。
*体験版をご利用するにはiOS9~のiPadが必要です。 *アナウンス冒頭にサンプルである旨の告知が入ります *数種類のアナウンスで使いやすさを体験いただけます。



App Store



検索/インストール



アプリ起動

防災

KaDk8SoV

ダウンロードKey入力

外国語放送による災害情報の伝達、避難誘導に新たな一手

日本政府観光局によると、訪日外国人旅行者（以下、訪日客）はこの10年で約2300万人増加し、今後も増加が期待されている。近年の傾向としては、全国の観光周遊ルートへの分散傾向が挙げられ、観光庁の宿泊旅行統計調査（平成30年速報値）によると、前年伸び率の都道府県別ランキングTOP10は①青森県、②宮城県、③山形県、④鳥取県、⑤広島県、⑥岩手県、⑦島根県、⑧岐阜県、⑨愛媛県、⑩熊本県であり、青森県と宮城県の伸び率は前年比145%を超えている。こうした状況から、訪日客への対策は全国的に急務となっている。

5割が日本の地震を不安視 避難誘導ガイドライン策定

東京消防庁が訪日客などを対象に実施したアンケート調査で「日本で不安に思う災害」につ

いて聞いたところ、5割超が「地震」と回答。上位順では、①地震50・7%、②津波35・6%、③台風22・7%、④火災14%となった。興味深いのは回答者の23・1%、4人に1人が滞在中に「地震」を経験していたことだ（本調査は2016年に羽田成田空港を利用した外国人約1900人を対象に複数回答形式で実施）。

消防庁では、2018年に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、施設で地震や火災が発生した際に、訪日客や障がいを持つ方々が円滑に避難できるように対策を促している。施設関係者に向け必要な設備の導入検討と、実践的な避難訓練を実施するための「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報伝達及び避難誘導に関するガイドライン」を策定し、ポイントをまとめたリーフレットを

配布したり、消防庁ホームページでPDF版を掲載している。外国人対応も含めた避難訓練の参考にされてはいいだろうか。

対策が遅れる外国語放送

訪日客にも対応する自衛消防体制の整備でもっとも遅れていると感じる1つが、外国語による防災センターからの放送である。モバイル翻訳機などの活用で「個別（1・1）」向けの外国人対応は進んでいるものの、広大な施設内での「全体（1・1不特定多数）」への災害情報の伝達、避難誘導時の防災センターからの非常放送の多言語対応が遅れていると感じられる。

災害状況や場所、最新の対応方法を伝える、まさに災害時の司令塔ではあるが、残念ながら多言語を自在に話せる人材はそうそう存在しない。非常時の多言語放送の難しさはその中身の多

様性にある。発生内容や場所、時間の経過とともに刻々と変わる災害状況と、お客様への対応内容の変化は地震、火災、豪雨交通状況などまさに千差万別。それに加えて避難なのか待機なのかを状況に合わせてタイムリーに伝えなくてはならない。理想としては防災センターに日本語、英語、中国語、韓国語を話せる人たちが常駐させたいが、4人が1本のマイクで代わる代わる放送することになり実際には現実的ではない。

多言語対応が必要な放送内容の分析

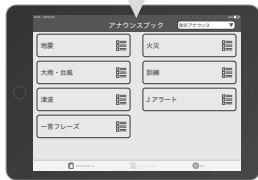
館内放送や店内放送で多くの多言語CMを翻訳／制作しているUSENNEXT GROUPのUSENでは、100を超えるショッピングセンターなどの商業施設や百貨店、自治体協力のもと、防災センター／管理



テンプレートが充実

火災、地震、津波、停電、避難訓練、緊急事態など
使用が想定されるアナウンスをインストール済み

日英中韓の
4カ国語アナウンスに対応
100種類
26,000種類の
テンプレート



アナウンスアプリ (防災)

操作は簡単! 選んで再生するだけ

防災アナウンス

(例)【ボヤ発生、消火活動中】

日本語: 6階にてボヤが発生しました。
英語: There is incipient fire on the 6th floor.
中国語: 6楼发生了小型火灾。
韓国語: 6층작은 화재가 발생하였습니다.



事務所で使用している災害時の放送マニュアル、避難訓練マニュアルを入手し分析した。結果、文章の構成や放送順に傾向があり自衛消防隊への連絡など日本語だけでよい放送を除く、お客様に向けた多言語対応が必要な放送内容に絞るとテンプレート化、平準化ができることが判明した。これは各施設での翻訳コストを削減し、放送音源をあら

はじめ制作しておくことでいつでも多言語の音声が見える状態にできるということである。防災原稿のバリエーションはまさに多彩といつていい内容で、火災や地震、津波、洪水、台風や大雨、避難訓練、交通状況、Jアラート、エレベーターなど膨大な量を、専門のライターにより文章の平準化、内容構成を整え、その後、翻訳サービス国際規格ISO17100を取得している翻訳会社に依頼し、国内でも類を見ない日本語、英語、中国語、韓国語の4言語による災害時の非常放送原稿を完成させた。4言語のバリエーションが必要なので最終的にその数は数千種類となった。

施設の日常のにぎやかさとは異なり、災害時の施設内の喧騒における非常放送においては「聞き取りやすさ」の重要性は無視できない。音にこだわってきたUSENでは、災害時の混乱した施設内でも聞き取りやすい音声とはどのようなものかを研究した結果、人の耳には聞き取りやすい周波数(声)が存在することが分かった。プロのナレーターといつても収録の度にまったく同じ周波数では話せ

ない。加えて、非常放送設備に関するガイドラインによると、防災センターからの音声は「男性の声によるもの」と記載されているため、女性の声に比べて基本的に聞き取りにくい性質がある。そこで一定の品質が保てる国内の高品質な音声合成ソフトウェアから話者を選び、聞き取りやすくチューニングする工程を加えた結果、災害時の非常放送としてより適切な「声」が完成したのである。

外国語放送もできるアナウンスアプリ

多言語による非常放送サービスは、既存の非常放送設備を入れ替えることなく導入可能なタブレットのアプリによるものとなった。大型の画面にタッチするだけで放送内容に間違いがないかを事前に確認してから放送できるのがポイントだ。防災センターの日本人1人で4言語による、「言い間違いのない」「あわてた声にもならない」非常放送がいつでも発信できるのである。アプリなので後から放送内容の追加や変更ができることも施設側にとっては安心できる点

ではないだろうか。また、万が一の際にどこにしまったかを探しているようでは不安が残る。そこで、放送設備に収納できる薄型(1Uサイズ)の専用トレイが用意され、タブレット充電の電源ケーブルが放送ラックからはみ出ることもない。これは多言語も流せるメガホン型と違い、非常放送設備で専用設計のポイントである。デモ機を利用したユーザーの声でも万が一の際にスマートフォン程度の画面では小さくて探しにくい、誤放送しなにか心配という声があった。タブレットの大型画面であれば安心も安全も、使いやすいさも兼ね備えている。

アプリの音声は初回にダウンロードされるため、インターネットが使えない状況であっても放送することが可能で、施設内に流す音量も導入時や訓練のタイミングでいつでも調整できるので安心である。

2020年に向けた最後の秋の防災訓練となるこのタイミングで、使い勝手も含めて確認いただけるように貸し出しデモ機を用意しているので、ぜひともお問合せいただきたい。